資料3－4

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

（様式1）

事業者名	富士急モビリティ株式会社		
系統名(起点～経由地～終点)	御殿場線	御殿場駅～裾野駅～三島駅	
計画策定年度	令和4年度	運行期間	R4.10.1～R5.9.30
評価年度	令和5年度		

（1）基本的事項

項目	基準	計画 （目標）	運行実績 （内容）	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	－	別紙	A	A：運行目的どおり適切に実施 B：減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C：運行目的どおり実施されなかった（路線廃止）
増収策	事業者計画と実績を比較	－	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	－	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

（2）各項目の評価

項目	評価基準	計画 （目標）	運行実績 （内容）	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	（ 1825 ）回 （ 5 回/日）	（ 1825 ）回 （ 5 回/日）	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 （国土交通大臣が認める除外運行回数は除く）	計画（目標）は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	42.9%	71.6%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	計画値：R4実績 自社経費
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	48,201人	59,375人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	計画値：R4実績
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点（バス停等）の数	－	拠点（ 3 ）箇所 バス停（ 8 ）箇所	14	拠点（駅・BT）：1箇所2点 乗換可能なバス停：1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合（運行実績による）	－	57.00%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 （バス停から半径500m以内に存在する 学校（小・中・高・大・専門学校） 病院（主なもので可） 拠点商業施設・企業（主なもので可） その他（官公庁・駅等）	－	施設名称 【駅】 三島駅・岩波駅、南御殿場駅、御殿場駅 【官公庁】 富士岡支所、深良支所、静岡県御殿場合同庁舎、裾野市福祉保健会館、三島市民文化会館、裾野市役所、裾野市民文化センター 【病院】 御殿場かいせい病院、大橋医院、復生病院 【観光施設】 楽寿園、時の栖 【企業学校】 三島長陵高校、順天堂大学保健看護学部、日大三島、三島北高校、富士岡小学校、三菱アルミニウム、岡村製作所、矢崎部品、トヨタ自動車東日本		－	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価（静岡・山梨ブロック）との比較	－	454.17円	0	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
			合計	61	評価指標	A

A（52～79点）：地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B（26～51点）：地域間幹線系統として適した運行となっている
C（ ～25点）：地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート（別紙）

（1）基本的事項

項　目	内　　容
主な運行目的	JR御殿場線と並行し、御殿場・裾野・三島の主要駅を繋ぐ地域間幹線である。 沿線には学校・病院・企業が多く存しているため、通学・通院・通勤を中心 とする市間を跨ぐ生活移動を補完することを目的に運行。 また、静岡県外を結ぶﾋﾞｼﾞﾈｽ移動や観光移動の交通結節点である新幹線三島駅、 JR御殿場駅から県内への二次交通として、広域移動の円滑化及び地域内の 活性化を図ることを目的とし運行。
増収策	ア. 割引（セット券）の販売及び季節路線の運行 ①御殿場周遊乗り放題きっぷ、富士登山バス・フリーきっぷを販売し、利用促進を促した。 ②ハイカー向けに夏季登山バスシーズン前後にハイキングバス（水ヶ塚公園、明神峠）を運行。 イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開 ①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。また市・町の広報誌やSNSで情報を配信を依頼し、 様々な媒体を通じて、公共交通の利用を呼びかけた。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施（10校）。 ③市町の公共交通担当者から直接学校等に公共交通の利用促進の呼びかけを実施いただき、学校行事での路線バス利用を獲得。 ウ. 利用者に配慮した取り組み ①車内ドライブレコーダー活用した接遇・事故の振返りを実施。 ②バスロケーションシステムを導入し、混雑状況や遅延状況をリアルタイムに配信。 ③GTFSデータを複数のコンテンツプロバイダーへ提供し、様々なサイトで乗換検索を可能にした。 ④多言語による情報を配信することで、言葉の壁を排除し利用しやすい公共交通機関の提供に心掛けた。 ⑤車内精算にクレジットカードを追加し、利便性の提供を実施した。 エ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動 ①地域福祉イベントに参加し、SDGsとバリアフリーを紹介し、バス利用へのきっかけづくりを行った。 ②静岡県内のグループバス会社と協力した乗り放題切符の造成。 ③SNSを活用した運行情報の発信。
費用削減策	ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施。 イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員へ の声掛け、指導運転士街頭指導による注意喚起により、費用削減を図った。 ウ. ドライブレコーダ（H25年度内で全車搭載済み）を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。 エ. 効率的な運行を実施し、無駄な走行を減らすことで経費削減を図った。 オ. デジタル定期券を導入し、対人窓口の営業時間を短縮しつつも24時間定期券が購入できる環境を構築。 カ. 電気を動力源とするEVバスを導入し、動力費の削減を行った。

（2）各項目の評価

項　目	内　　容
ネットワーク構成	（主な乗換え拠点・バス停） JR三島駅・・・JR東海道線、東海道新幹線 JR岩波駅・・・JR御殿場線 JR御殿場駅・・・JR御殿場線 【バス停】 東レ入口・・・（富士急シティバス）光が丘団地方面 萩芙蓉台・・・（富士急シティバス）芙蓉台及び見晴台方面 平松南・・・（富士急シティバス）桜堤経由三島駅方面 裾野駅入口・・・JR裾野駅 裾野市民文化センター・・・（富士急シティバス）裾野市内循環線 復生病院前・・・（自社）御殿場特別支援学校方面 かまど中・・・JR南御殿場駅 森の腰・・・（自社）御殿場市内系統
公共施設 拠点施設 アクセス状況	（バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設） 日本大学、日本大学三島高校、三島北小中学校、徳倉小学校、裾野市役所、 裾野西小学校、大橋医院、裾野市民文化センター、神山小学校、 神山復生病院、富士岡中学校、富士岡小学校、静岡県御殿場総合庁舎 【拠点施設】 矢崎部品、ﾄﾖﾀ自動車東日本、トヨタウーブン・シティ、ベルシティ（ショッピングセンター） 時の栖、岡村製作所

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

（様式1）

事業者名　富士急モビリティ株式会社

系統名(起点～経由地～終点)　駿河小山線　御殿場駅～一色～駿河小山駅

計画策定年度　令和4年度　運行期間　R4.10.1～R5.9.30　評価年度　令和5年度

(1)基本的事項

項目	基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A:運行目的どおり適切に実施 B:減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C:運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2)各項目の評価

項目	評価基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(3,132.5)回 (8.6 回/日)	(3,132.5)回 (8.6 回/日)	3	計画数以上　3点 計画数未満　0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	52.0%	53.4%	15	～29%　0点 30～34%　3点 35～39%　6点 40～44%　9点 45～49%　12点 50～54%　15点 55%～　18点	計画値:R4実績 自社経費
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	58,029人	62,400人	6	5%超　6点 ▲5%以上5%以内　3点 ▲5%超　0点	計画値:R4実績
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(　2　)箇所 バス停(　7　)箇所	11	拠点(駅・BT):1箇所2点 乗換可能なバス停:1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合 (運行実績による)	—	67.30%	20	～4%　0点 5～9%　5点 10～14%　10点 15～19%　15点 20%～　20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する 学校(小・中・高・大・専門学校) 病院(主なもので可) 拠点商業施設・企業 (主なもので可) その他(官公庁・駅等)	—	施設名称 【駅】 御殿場駅・駿河小山駅 【官公庁】 御殿場市役所、小山町役場、小山町消防署、御殿場保健センター 【病院】 救急医療センター 【企業・学校】 御殿場高校、御殿場小学校、御殿場東小学校、高根小学校、明倫小学校、		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	454.17円	0	単価を上回った　0点 単価～▲5%　3点 単価▲6～▲10%　6点 単価▲11～▲15%　9点 単価▲16～▲20%超　12点	
			合計	55	評価指標	A

A(52～79点):地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点):地域間幹線系統として適した運行となっている
C(　～25点):地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート（別紙）

（1）基本的事項

項　目	内　　容
主な運行目的	JR御殿場駅とJR駿河小山駅を起終点とし、御殿場市内と小山町内を繋ぐ地域間幹線である。 朝夕は小山町内から御殿場駅方面への通学・通勤による生活移動を補完するため、日中は沿線に行政施設やスーパーなどの商業施設が存するため、役場や買い物移動など、地域間の広域的な生活移動を補完することを目的に運行。
増収策	ア. 割引（セット券）の販売及び季節路線の運行 ①御殿場周遊乗り放題きっぷ、富士登山バス・フリーきっぷを販売し、利用促進を促した。 ②ハイカー向けに夏季登山バスシーズン前後にハイキングバス（水ヶ塚公園、明神峠）を運行。 イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開 ①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。また市・町の広報誌やSNSで情報を配信を依頼し、様々な媒体を通じて、公共交通の利用を呼びかけた。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施（10校）。 ③市町の公共交通担当者から直接学校等に公共交通の利用促進の呼びかけを実施いただき、学校行事での路線バス利用を獲得。 ウ. 利用者に配慮した取り組み ①車内ドライブレコーダー活用した接遇・事故の振返りを実施。 ②バスロケーションシステムを導入し、混雑状況や遅延状況をリアルタイムに配信。 ③GTFSデータを複数のコンテンツプロバイダーへ提供し、様々なサイトで乗換検索を可能にした。 ④多言語による情報を配信することで、言葉の壁を排除し利用しやすい公共交通機関の提供に心掛けた。 ⑤車内精算にクレジットカードを追加し、利便性の提供を実施した。 エ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動 ①地域福祉イベントに参加し、SDGsとバリアフリーを紹介し、バス利用へのきっかけづくりを行った。 ②静岡県内のグループバス会社と協力した乗り放題切符の造成。 ③SNSを活用した運行情報の発信。
費用削減策	ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施。 イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、指導運転士街頭指導による注意喚起により、費用削減を図った。 ウ. ドライブレコーダ（H25年度内で全車搭載済み）を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。 エ. 効率的な運行を実施し、無駄な走行を減らすことで経費削減を図った。 オ. デジタル定期券を導入し、対人窓口の営業時間を短縮しつつも24時間定期券が購入できる環境を構築。 カ. 電気を動力源とするEVバスを導入し、動力費の削減を行った。

（2）各項目の評価

項　目	内　　容
ネットワーク構成	（主な乗換え拠点・バス停） 【拠点】 JR駿河小山駅・・・JR御殿場線 JR御殿場駅・・・JR御殿場線 【バス停】 湯沢・・・（自社）河口湖・須走方面 上合・・・（自社）冨士霊園方面 上町・・・（自社）上野方面 佐野川・・・（自社）冨士霊園方面、小山町コミュニティバス 仲町・・・（自社）小山高校・東山方面 その他18の停留所が小山町デマンドバス乗降ポイントに指定。
公共施設 拠点施設 アクセス状況	（バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設） 【公共施設】 郵便局5局、御殿場市役所、小山役場、小山町消防署、御殿場高校・中学校・小学校、コミュニティセンター、御殿場保健センター・救急医療センター、高根小学校・中学校、明倫小学校、小山町ふじみセンター 【拠点施設】 ウェルシア、マミー、セルバ、道の駅ふじおやま、コメリ、丸善食品

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート　（様式1）

事業者名　富士急モビリティ株式会社

系統名(起点～経由地～終点)　十里木線　御殿場駅～須山～十里木

計画策定年度　計画策定年度　令和4年度　運行期間　R4.10.1～R5.9.30　評価年度　令和5年度

（1）基本的事項

項目	基準	計画（目標）	運行実績（内容）	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	―	別紙	A	A:運行目的どおり適切に実施 B:減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C:運行目的どおり実施されなかった（路線廃止）
増収策	事業者計画と実績を比較	―	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	―	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

（2）各項目の評価

項目	評価基準	計画（目標）	運行実績（内容）	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	（ 2,128 ）回 （ 5.8回/日）	（ 2,128 ）回 （ 5.8回/日）	3	計画数以上　3点 計画数未満　0点 （国土交通大臣が認める除外運行回数は除く）	計画（目標）は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	33.4%	47.6%	12	～29%　0点 30～34%　3点 35～39%　6点 40～44%　9点 45～49%　12点 50～54%　15点 55%～　18点	計画値:R4実績 自社経費
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	36,971人	46,806人	6	5%超　6点 ▲5%以上5%以内　3点 ▲5%超　0点	計画値:R4実績
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点（バス停等）の数	―	拠点（ 1 ）箇所 バス停（ 6 ）箇所	8	拠点（駅・BT）:1箇所2点 乗換可能なバス停:1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合（運行実績による）	―	33.80%	20	～4%　0点 5～9%　5点 10～14%　10点 15～19%　15点 20%～　20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 （バス停から半径500m以内に存在する 学校（小・中・高・大・専門学校） 病院（主なもので可） 拠点商業施設・企業（主なもので可） その他（官公庁・駅等）	―	施設名称 【駅】 御殿場駅、 【官公庁】 原里支所、須山支所、板妻駐屯地、 【病院】 虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科 【企業・学校】 原里中学校、原里小学校、須山小学校、、クラボウ、ビオ中央公園、富士裾野工業団地、東海ゴム、JAなんすん、 【観光施設】 須山浅間神社、富士サファリパーク		―	-
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価（静岡・山梨ブロック）との比較	―	454.17円	0	単価を上回った　0点 単価～▲5%　3点 単価▲6～▲10%　6点 単価▲11～▲15%　9点 単価▲16～▲20%超　12点	
			合計	49	評価指標	B

A(52～79点):地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点):地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点):地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート（別紙）

（1）基本的事項

項目	内容
主な運行目的	裾野市と御殿場市を繋ぐ広域系統。 沿線には工業団地や集合住宅地が存する。特に沿線の裾野市十里木地区・須山地区は、生活圏を御殿場市までとすることから、同地区からの広域の生活移動（通勤・通学・通院・買い物）が多く存する。また、十里木地区から須山小学校への通学や御殿場市板妻地区の通勤・通学の地域内移動のニーズを満たす役割も担っている。 シーズン期には愛鷹山ハイキングの観光移動にも供する。
増収策	ア. 割引（セット券）の販売及び季節路線の運行 ①御殿場周遊乗り放題きっぷ、富士登山バス・フリーきっぷを販売し、利用促進を促した。 ②ハイカー向けに夏季登山バスシーズン前後にハイキングバス（水ヶ塚公園、明神峠）を運行。 イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開 ①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。また市・町の広報誌やSNSで情報を配信を依頼し、 様々な媒体を通じて、公共交通の利用を呼びかけた。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施（10校）。 ③市町の公共交通担当者から直接学校等に公共交通の利用促進の呼びかけを実施いただき、学校行事での路線バス利用を獲得。 ウ. 利用者に配慮した取り組み ①車内ドライブレコーダー活用した接遇・事故の振返りを実施。 ②バスロケーションシステムを導入し、混雑状況や遅延状況をリアルタイムに配信。 ③GTFSデータを複数のコンテンツプロバイダーへ提供し、様々なサイトで乗換検索を可能にした。 ④多言語による情報を配信することで、言葉の壁を排除し利用しやすい公共交通機関の提供に心掛けた。 ⑤車内精算にクレジットカードを追加し、利便性の提供を実施した。 エ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動 ①地域福祉イベントに参加し、SDGsとバリアフリーを紹介し、バス利用へのきっかけづくりを行った。 ②静岡県内のグループバス会社と協力した乗り放題切符の造成。 ③SNSを活用した運行情報の発信。
費用削減策	ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施。 イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員へ の声掛け、指導運転士街頭指導による注意喚起により、費用削減を図った。 ウ. ドライブレコーダ（H25年度内で全車搭載済み）を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。 エ. 効率的な運行を実施し、無駄な走行を減らすことで経費削減を図った。 オ. デジタル定期券を導入し、対人窓口の営業時間を短縮しつつも24時間定期券が購入できる環境を構築。 カ. 電気を動力源とするEVバスを導入し、動力費の削減を行った。

（2）各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	（主な乗換え拠点・バス停） 【拠点】 JR御殿場駅・・・JR御殿場線 【バス停】 森の腰・・・（自社）三島方面 大欅・・・（自社）神場方面 板妻・・・（自社）神場方面、（自社）印野方面 須山・・・（富士急シティバス）裾野方面 富士サファリパーク・・・（富士急静岡バス）富士、（富士急シティバス）三島方面 原里支所・・・（自社）ぐみ沢、御殿場西高校方面
公共施設 拠点施設 アクセス状況	（バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設） 【公共施設】 フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、原里中学校、原里小学校、原里支所、板妻駐屯地、須山支所、須山小学校、裾野富士山資料館、 【拠点施設】 クラボウ、ビオパーク、富士裾野工業団地、東海ゴム、JAなんすん、須山浅間神社、富士サファリパーク、十里木別荘地、愛鷹山登山口

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート　（様式1）

事業者名	富士急モビリティ株式会社		
系統名(起点～経由地～終点)	河口湖線	河口湖駅～旭が丘～御殿場駅	
計画策定年度	令和4年度	運行期間	R4.10.1～R5.9.30
評価年度	令和5年度		

(1)基本的事項

項目	基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A:運行目的どおり適切に実施 B:減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C:運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2)各項目の評価

項目	評価基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(1,095)回 (3回/日)	(1,095)回 (3回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	59.0%	80.5%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	計画値:R4実績 自社経費
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	27,133人	51,429人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	計画値:R4実績
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(3)箇所 バス停(11)箇所	17	拠点(駅・BT):1箇所2点 乗換可能なバス停:1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合 (運行実績による)	—	76.8%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する 学校(小・中・高・大・専門学校) 病院(主なもので可) 拠点商業施設・企業 (主なもので可) その他(官公庁・駅等)	—	施設名称 【駅】 御殿場駅、富士山駅、富士急ハイランド駅、河口湖駅 【官公庁】 御殿場市立図書館、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、山中湖村役場、自衛隊北富士駐屯地、上吉田コミュニティセンター 【病院】 富士吉田市立病院、渡辺整形外科 【学校】 御殿場西高校、須走小・中学校、山中湖小・中学校、富士吉田市立看護専門学校、日大セミナーハウス 【観光施設】 御殿場中央公園、道の駅すばしり、天恵、キリンディスティラリー、須走浅間神社、、森の駅旭日丘、文学の森公園、山中湖郵便局、忍野八海、ファナック、さかな公園、忍野温泉、道の駅富士吉田、北口本宮富士浅間神社、富士山レーダードーム館、富士急ハイランド		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	454.17円	0	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
			合計	64	評価指標	A

A(52～79点):地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点):地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点):地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1)基本的事項

項　目	内　　容
主な運行目的	静岡、山梨両県を結ぶ唯一の広域系統であり、地域における一次交通として機能する。 県間を跨ぐ国道138号の通行が運行の大部分を占め、沿線には学校・病院・企業などの生活拠点ほか商業施設も多く存する。 主に山梨県から静岡への越県通学者や県内においては小山町と御殿場市市内の生活の足として利用される。土休日・繁忙時は観光客の移動を補完する役割も担うことから、地域間・地域内の活性化にも寄与する。 走行ルートは御殿場市・小山町・山梨県山中湖村・富士吉田市・河口湖町の2県5市町村に跨る大規模路線である。
増収策	ア. 割引(セット券)の販売及び季節路線の運行 ①御殿場周遊乗り放題きっぷ、富士登山バス・フリーきっぷを販売し、利用促進を促した。 ②ハイカー向けに夏季登山バスシーズン前後にハイキングバス(水ヶ塚公園、明神峠)を運行。 イ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開 ①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。また市・町の広報誌やSNSで情報を配信を依頼し、 様々な媒体を通じて、公共交通の利用を呼びかけた。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施(10校)。 ③市町の公共交通担当者から直接学校等に公共交通の利用促進の呼びかけを実施いただき、学校行事での路線バス利用を獲得。 ウ. 利用者に配慮した取り組み ①車内ドライブレコーダー活用した接遇・事故の振返りを実施。 ②バスロケーションシステムを導入し、混雑状況や遅延状況をリアルタイムに配信。 ③GTFSデータを複数のコンテンツプロバイダーへ提供し、様々なサイトで乗換検索を可能にした。 ④多言語による情報を配信することで、言葉の壁を排除し利用しやすい公共交通機関の提供に心掛けた。 ⑤車内精算にクレジットカードを追加し、利便性の提供を実施した。 エ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動 ①地域福祉イベントに参加し、SDGsとバリアフリーを紹介し、バス利用へのきっかけづくりを行った。 ②静岡県内のグループバス会社と協力した乗り放題切符の造成。 ③SNSを活用した運行情報の発信。
費用削減策	ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施。 イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員へ の声掛け、指導運転士街頭指導による注意喚起により、費用削減を図った。 ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。 エ. 効率的な運行を実施し、無駄な走行を減らすことで経費削減を図った。 オ. デジタル定期券を導入し、対人窓口の営業時間を短縮しつつも24時間定期券が購入できる環境を構築。 カ. 電気を動力源とするEVバスを導入し、動力費の削減を行った。

(2)各項目の評価

項　目	内　　容
ネットワーク構成	(主な乗換え拠点・バス停) 【拠点】 JR御殿場駅・・・JR線 富士山駅・・・富士急行線　河口湖駅・・・富士急行線 【バス停】 湯沢・・・(自社)小山方面、(箱根登山バス)箱根方面　ぐみ沢・・・(自社)チアーズガーデン線 図書館前・・・東京行高速バス、横浜行高速バス 須走浅間神社・・・小山町内コミュニティバス(すばしりコース) 山中湖旭日丘・・・(富士急バス)平野線 山中湖村役場前・・・新宿行高速バス 富士山山中湖(ホテルマウント富士入口)・・・長池方面、忍野方面、新宿行高速バス 忍野入口・・・(富士急バス)内野方面、(京王バス)新宿行中央高速バス 横町・・・富士吉田市内コミュニティバス(新倉～熊穴団地～市立病院コース) 警察署前・・・富士吉田市内コミュニティバス(新倉～熊穴団地～市立病院コース) その他5個の停留所が小山町デマンドバス乗降ポイントに指定。
公共施設 拠点施設 アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 【公共施設】 御殿場市立図書館、御殿場西高校、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、須走小学校、須走中学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、山中湖小学校、山中湖中学校、自衛隊北富士駐屯地、富士吉田市立病院、富士吉田市立看護専門学校、上吉田コミュニティセンター 【拠点施設】 JA御殿場、、キリンディスティラリー、ケーズデンキ、JA須走、須走浅間神社、道の駅すばしり、天恵、日大セミナーハウス、森の駅旭日丘、文学の森公園、ファナック、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、道の駅富士吉田、北口本宮冨士浅間神社、都留信用組合、富士急ハイランド、渡辺整形外科

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート　（様式1）

事業者名　富士急バス株式会社

系統名(起点～経由地～終点)　河口湖線　（河口湖駅～旭日丘～御殿場駅）

計画策定年度　令和4年度　運行期間　R4.10.1～R5.9.30　評価年度　令和5年度

(1)基本的事項

項目	基準	計画（目標）	運行実績（内容）	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	―	別紙		A:運行目的どおり適切に実施 B:減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C:運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	―	別紙		事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	―	別紙		事業者ごとの取組を記載

(2)各項目の評価

項目	評価基準	計画（目標）	運行実績（内容）	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(3650)回 (10回/日)	(3650)回 (10回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	44.5%	69.7%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	101,794人	230,566人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	―	拠点(3)箇所 バス停(11)箇所	17	拠点(駅・BT):1箇所2点 乗換可能なバス停:1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合 (H13.3.31現在の市町) (運行実績による)	―	90.27%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する 学校(小・中・高・大・専門学校) 病院(主なもので可) 拠点商業施設・企業 (主なもので可) その他(官公庁・駅等)	―	別紙		―	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	―	475.61円	0	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
			合計	64	評価指標	A

A(52～79点):地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点):地域間幹線系統として適した運行となっている
C(　～25点):地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート（別紙）

（1）基本的事項

項　目	内　　容
主な運行目的	静岡東部と山梨県を結ぶ唯一の広域系統であり、地域における一次交通として機能する。 県間をまたぐ国道138号の通行が運行の大部分を占め、沿線には学校・病院・企業などの生活拠点ほか商業施設も多く存ずる。 主に山梨県から静岡県への越県通学者や県内においては小山町と御殿場市市内の生活の足として利用される。土休日・繁忙期は観光客の移動を補完する役割も担うことから、地域間・地域内の活性化に寄与する。
増収策	（1）地域との連携や自社スケールを活用してセールスを実施。新規利用者を取り込む。 ①関係自治体と連携してバスの乗り方教室を実施する。 ②バス利用へのきっかけを作る。 ア．幼稚園・小学生及び、高齢者を対象としたバス乗り方教室を実施する。 イ．バス車内におけるイベント企画（幼稚園・学生個展やクリスマス装飾など）や 車内映像モニターの活用による地域施設の紹介などを検討・実施する。 ③公共交通の最適ルートをWEBで情報発信しているコンテンツプロバイダや観光情報サイトに参画（露出）し、 利用者の取り込みを図る。 ④自社スケールメリットを活かし、テレビや新聞など大型パブリシティを獲得していく。 ⑤各自治体・学校施設・旅行会社と連携し、EVバスを利用したSDGsの取り組みを伝え、バス利用の促進を図る。 （2）利用環境の改善により利用促進を図る。 ①低床バス比率を高め、高齢者など交通弱者のニーズに応え利用促進を図る。 ②地域別のバスマップの作製。 ③バスロケーションシステムを利用し、バスの現在地・遅延情報を公開することで利用者の利便性向上を図る。 （3）商品造成 グループのスケールメリットを活かし、関係施設との企画乗車券を作成し、 関係施設とのタイアップ効果によるバス利用の促進を図る。
費用削減策	（1）運行の効率化（経費削減）を図るため、路線の再編、減便等の検討を行う。 （2）引き続き、グループのスケールメリットを活かした一括購入による仕入価格の減少やエコドライブを推進し、経費削減を図っていく。 （3）軽油燃料・オイル・タイヤの仕入れ価格について、引き続き本社部門での定期的見直し（相見積）を行う。 （4）車両購入や比較的金額が多い備品類等についても比較購入を実施し、固定経費の削減を図る。 （5）エコドライブ推進（アイドリングストップ運動）により、軽油の使用量削減と環境保全に努める。 （6）車両の計画的更新による燃料効率の向上と、修繕費の削減に努める。 （7）EVバスでの運行を行うことで燃料使用量を削減する。 （8）ラッピングバス等付帯収入の確保により、収支改善を図る。

（2）各項目の評価

項　目	内　　容
ネットワーク構成	（主な乗換え拠点・バス停） 【拠点】 JR御殿場駅・・・JR線 富士山駅・・・富士急行線 河口湖駅・・・富士急行線 【バス停】 湯沢・・・小山方面、箱根方面 ぐみ沢・・・チアーズガーデン線 図書館前・・・東京行高速バス、横浜行高速バス 須走浅間神社・・・小山町内コミュニティバス（すばしりコース） 山中湖旭日丘・・・平野線 山中湖村役場前・・・新宿行高速バス 富士山山中湖（ホテルマウント富士入口）・・・長池方面、忍野方面、新宿行中央高速バス 忍野入口・・・内野方面、新宿行中央高速バス セメ草・・・富士吉田市立病院方面 横町・・・富士吉田市内コミュニティバス（新倉～熊穴団地～市立病院コース） 消防署前・・・富士吉田市内コミュニティバス（新倉～熊穴団地～市立病院コース）
公共施設 拠点施設 アクセス状況	（バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設） 【公共施設】 御殿場市立図書館、御殿場西高校、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、須走小学校、須走中学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、山中湖小学校、山中湖中学校、自衛隊北富士駐屯地、富士吉田市立病院、富士吉田市立看護専門学校、上吉田コミュニティセンター 【拠点施設】 JA御殿場、、キリンディスティラリー、ケーズデンキ、JA須走、須走浅間神社、道の駅すばしり、日大セミナーハウス、森の駅旭日丘、文学の森公園、ファナック、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、道の駅富士吉田、北口本宮冨士浅間神社、都留信用組合、富士急ハイランド、渡辺整形外科